

2025 年度定時社員総会

議 事 録

公益社団法人日本クレー射撃協会

2025 年度定時社員総会

議 事 録

1. 日時 2025 年 6 月 24 日（火） 13 時 00 分～
2. 場所 JAPAN SPORT OLIMPIC SQUARE 14 階 岸メモリアルホール 3

3. 議決権のある社員（正会員）の総数 47 名

総社員（正会員）の議決権の数 47 個

（出席者 計 17 名）

相馬 正（青森）、齊藤 豊隆（秋田）、早水 良幸（福島）、萩野谷 豊光（茨城）、
原田 光男（栃木）、峯岸 茂（埼玉）、柿原 康晴（東京）、松本 秀彦（静岡）、
齊藤 隆司（新潟）、瀧根 隆幸（富山）、白坂 政治（石川）、難波 克哲（兵庫）、
森 秀樹（滋賀）、丸石 博（島根）、長谷川 雅彦（山口）、坂本 昭一（佐賀）
原田 敬司（宮本昌幸の代理）（和歌山）、

（WEB 出席者 計 11 名）

田畑 潤也（岩手）、須貝 昇（山形）、古川 竜則（京都）、向井 寿夫（大阪）、
川井 正巳（奈良）、上野 耕司（岡山）、藤井 則行（広島）、宮本 公一（徳島）、
堺 良雄（福岡）、市川 勝彦（長崎）、安藤 良男（熊本）

（委任状による出席者 計 17 名）

- ◆坂井則寿（北海道）、今泉道男（群馬）、加藤修一（神奈川）、藪芳朗（福井）、
村尾泰之（香川）、棚田浩之（愛媛）、以上 6 名が不老安正（会長）へ委任
- ◆佐藤良太郎（宮城）が相馬正（青森）へ委任
- ◆小池康弘（山梨）が大内智喜（理事）へ委任
- ◆永田英二（愛知）、曾村克幸（岐阜）、岩崎裕司（鳥取）、堀川博幸（高知）、以上 4 名が
丸石博（島根）へ委任
- ◆村山晃一（長野）が瀧根隆幸（富山）へ委任
- ◆福本忠隆（大分）、森英典（宮崎）、丸目英隆（鹿児島）、吉山盛充（沖縄）、以上 4 名が
坂本昭一（佐賀）へ委任

（欠席者）

江野澤吉克（千葉）、橋本修（三重）

4. 出席役員等

◆学識経験者理事 11 名

不老安正（議長／会長）、丸石博（副会長）、夏樹陽子（副会長）、中園功一（副会長）、
清水光一（常務理事）、大内智喜（常務理事）、小川晶子（理事）、小高左起子（理事）、
大山重隆（理事）、池内数哉（理事）、布野兼一（理事）、WEB 松島愛（理事）

◆ブロック選出理事 6 名

相馬正（理事）、原田光男（理事）、瀧根隆幸（理事）、長谷川雅彦（理事）、
WEB 古川竜則（理事）、WEB 堺良雄（理事）

◆監事 2 名

萩野谷豊光（監事）、坂本昭一（監事）

◆専門委員長 3 名

多久和寿稔（競技委員長）、中根逸朗（審査委員長）、中山由起枝（強化委員長）

◆本部事務局 3 名

坂本強（事務局長）、大江直之（HPAD）、杉野彰一（経理）

（出席理事 18 名、出席監事 2 名）

会 長	不老 安正	（福 岡）
副会長	丸石 博	（島 根）
副会長	夏樹 陽子	（ — ） * 藤井真紀
副会長	中園 功一	（鹿児島）
常務理事	大内 智喜	（長 野）
常務理事	清水 光一	（本 部）
理 事	大山 重隆	（埼 玉）
理 事	相馬 正	（青 森）
理 事	原田 光男	（栃 木）
理 事	瀧根 隆幸	（富 山）
理 事	古川 竜則	（京 都） WEB
理 事	長谷川雅彦	（山 口）
理 事	堺 良雄	（福 岡） WEB
理 事	小川 晶子	（ — ）
理 事	小高左起子	（ — ）
理 事	池内 数哉	（大 阪）
理 事	布野 兼一	（長 野）
理 事	松島 愛	（ — ） WEB
監 事	萩野谷豊光	（茨 城）
監 事	坂本 昭一	（佐 賀）

（欠席理事 2 名）

専 務	増田 正起	（静 岡）
理 事	ヒロミ	（芸 文） * 小園浩巳

WEB 会議システムにより、出席者の声が即時に他の出席者に伝わり、一堂に会するの同等に適時的確な意見表明が互いに出来る状況となっていることを確認した上で、社員総会の開会を宣し、以下の議事に入った

不老会長（議長）より挨拶

皆さま、こんにちは。本日は令和 7 年度 公益社団法人日本クレイ射撃協会の総会に、全国各地から役員・正会員の皆さま、そしてウェブでご参加の皆さまにご出席いただき、誠にありがとうございます。日頃より当協会の運営に多大なるご尽力を賜っておりますこと、心より感謝申し上げます。

げます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、当協会の事業も円滑に遂行することができました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物であり、深く御礼申し上げます。

一方で、非常に残念な出来事もございました。昨年7月に開催されたパリ五輪において、当協会からの出場選手がオリンピックに一人もいなかったことは、初めてのことであり、JOCをはじめ関係各所に対しても大変心苦しい結果となりました。特に、昨年4月の最終予選には全力で臨みましたが、惜しくもクォータ獲得には至らず、今後のオリンピック出場に暗雲が立ち込める結果となりました。

しかしながら、来年度9月には第20回アジア大会（愛知・名古屋大会）が控えております。現在、選考会を進めており、この大会で好成績を収め、2026年ロサンゼルス五輪にはぜひ選手を送り出したいと考えております。ところが、開催予定の会場はライフル競技とクレイ競技を同一施設で実施する計画であるにもかかわらず、現時点で整備が全く進んでおらず、私自身も現地視察やウェブ会議を重ねておりますが、予算面の課題もあり、開催まで残された時間を考えると非常に危機感を抱いております。

また、国際的な視点から見ても、世界149カ国の射撃連盟のうち、ライフルとクレイが別組織となっているのは日本を含めわずか13カ国に過ぎません。この分離体制が国際的な連携や運営において障害となる場面もあり、将来的には統合の可能性も視野に入れるべき時期に来ていると感じております。

その一環として、現在、ライフル協会との間で女性理事の相互派遣を行い、情報共有と協力体制の構築を進めております。これは、開かれた射撃界を目指す上での一つの試みであり、今後の運営の方向性を示すものと考えております。

本日は、重要な審議事項も控えております。どうか実りある総会となりますよう、皆さまのご協力をお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

それでは、定款第25条の規定に基づき、本総会の議事録署名人として、相馬正（青森県正会員）、長谷川雅彦（山口県正会員）の2名を選任いたします。ご承認のほど、よろしくお願いいたします。

続いて、報告事項に移ります。報告事項1「2024年度会員数」について、事務局よりご報告申し上げます。

報告事項1：2024年度会員数について

坂本事務局長：

資料No.1についてご説明いたします。記載の通り、47都道府県および各部会の合計会員数は、2024年度で2,040名となり、前年の2,114名から74名の減少という厳しい結果となりました。協会全体が混乱期にあったことや、装弾価格の高騰なども影響していると聞いております。

そのような中でも、女子会員の拡充については一定の進展が見られます。青森国スポを契機に女子会員の導入を進めてきた結果、現在女子会員がゼロの県は4県にまで減少しました。国スポに向けては、ふるさと選手として女性を参加させる動きもあると聞いており、今後も各都道府県の関係者の皆様には、女性会員の増加に向けたご協力をお願いしたいと考えております。

また、会員数の増加において顕著な成果を挙げたのが山梨県と千葉県です。山梨県は5名、千葉県は4名の増員を達成し、いずれも他県を上回る成果でした。これに対し、感謝状と奨励金を用意いたしましたので、この場をお借りして贈呈式を執り行います。該当県の代表者に前へお進み

いただきたいところですが、両県とも正会員が本日は会場に不在のため、関東ブロックを代表して原田光男ブロック理事に受け取りをお願いしたいと思います。

不老会長：

山梨県クレ射撃協会殿。貴会は2024年度において会員数を増加させ、当協会が掲げるクレ射撃競技の普及と振興に大きく貢献されました。ここに深甚なる敬意と感謝の意を表し、感謝状を贈呈いたします。令和7年6月吉日、公益社団法人日本クレ射撃協会 会長 不老安正。おめでとうございます。

続いて千葉県クレ射撃協会殿。文面は山梨県と同様です。おめでとうございます。

報告事項2：正会員の変更について

坂本事務局長：

それでは、報告事項2に移ります。資料No.2をご覧ください。6月23日時点での正会員一覧表を、すでに皆さまに配布しております。表中には色分けが施されており、それぞれの意味についてご説明いたします。

まず、オレンジ色で示された方々についてです。協会では、正会員の年齢上限を72歳と定めており、これを超える方には後進への交代をお願いしてまいりました。協会としてはあらためて正会員のバトンタッチをお願い申し上げます。円滑な世代交代と組織の活性化の観点から、引き続きご理解とご協力をお願いしたいと考えております。

次に、ピンク色で示された三重県の件については、先ほどの報告事項でご説明した通りですので、ここでは割愛いたします。

続いて、黄色で示された方々は、今回の総会に初めて出席された新任の正会員です。以下、お名前を読み上げさせていただきます。

－ 岩手県代表：田畑潤也様

（田畑様：田畑です。右も左も分からない状況ですが、よろしくお願いします。）

→ 田畑様、どうぞよろしくお願いいたします。

－ 福島県代表：早水良幸様

（早水様：このたび福島県代表に就任いたしました。よろしくお願いいたします。）

→ ご就任おめでとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

－ 静岡県代表：松本秀彦様

（松本様：静岡の松本です。よろしくお願いします。）

→ ご参加ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

－ 福井県代表：藪様

本日はご欠席とのことですが、今回より新たに正会員として登録されております。

－ 岡山県代表：上野耕司様

ご出席予定でしたが、現在のところ接続が確認できておりません。ただし、今後は正会員としてご参加いただく予定です。

以上が、今回新たに正会員としてご参加いただいた皆様です。新任の皆様には、今後の協会運営において積極的なご意見とご協力を賜れば幸いです。私からの説明は以上です。

不老会長：

ただいま事務局より、正会員の交代および新任会員についての報告がございました。協会では、

正会員の年齢上限を 72 歳と定めており、これに基づき、該当される方々には後進への交代をお願いしております。これまでにご理解とご協力をいただいた県協会の皆様には、心より感謝申し上げます。

しかしながら、現在も年齢制限に抵触している正会員が 3 名おられ、該当する県協会に対しては、引き続き交代のお願いを行っている状況です。協会としては、円滑な世代交代を進めるため、今後も丁寧に協議を重ねてまいります。仮に依頼に応じていただけない場合には、定款の改正を含め、理事会として厳正な対応を検討していることを申し添えます。

それでは、ただいまの報告事項 2 について、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。特にご意見がなければ、本件はご了承いただいたものといたします。

一同：

はい。

不老会長：

ありがとうございました。報告事項 2 については、ご了承いただいたものと確認させていただきます。

報告事項 3：2025 年度事業計画・収支予算について

坂本事務局長：

それでは、資料 No. 3 に基づき、2025 年度の事業方針についてご説明いたします。資料は事前に配布済みのため、1 ページ目の要点を読み上げた後は、各項目を簡潔にご説明いたします。

まず、2025 年度の基本方針として、協会はスポーツ団体ガバナンスコードを踏まえたコンプライアンスの徹底とガバナンスの強化に努め、クレイ射撃の健全な普及と競技力の向上を目指します。具体的には以下の 8 点を重点施策として掲げております：

- ガバナンスコードに基づく組織体制の強化と規定類の整理・見直し
- 各委員会による継続的かつ積極的な事業改善と資質向上
- 各種競技大会の充実による会員満足度の向上
- 審判員およびスポーツ指導者の育成と資格認定の推進
- 国体開催地における大会後のレガシー創出への取り組み
- 医・科学およびアンチドーピングに関する教育・啓発活動の推進
- SNS やウェブ動画配信を活用した効果的な情報発信
- 加盟団体、射撃場、銃砲店など業界関係者との対話の推進

2 ページ目では、広報活動について触れております。これまで通り、会報誌『シュータズ』を通じた会員への情報提供に加え、X（旧 Twitter）、Facebook、YouTube などの SNS を活用し、クレイ射撃の魅力を広く発信してまいります。

3 ページ目は国民スポーツ大会（国スポ）に関する内容です。2026 年度の青森・弘前国スポに向けて、今年 7 月には弘前でプレ大会を開催予定です。なお、2025 年度は滋賀国スポにクレイ射撃が採用されていないため、代替大会を岡山で実施する予定です。

4 ページ目では、全日本選手権の予選を兼ねた本部公式大会について記載しております。これまでに 5 大会を実施し、今週末には福岡県立総合射撃場にてブロック本部公式第 3 戦が開催されます。

5 ページ目は地方公式大会についてです。装弾価格の高騰など厳しい状況下にもかかわらず、今

年度は全国 47 都道府県から 248 大会の申し込みをいただいております。地方大会の活性化は本部の活性化にもつながるため、引き続きご支援をお願い申し上げます。

また、ブロック講習会については、すでに半数の県から申し込みをいただいておりますが、未申請の地域についても、開催可能な状況であれば本部までご連絡ください。

昨年度は 5 年ぶりに成田で公認コーチ養成講習会を実施し、49 名が修了しました。今年度も 1 月または 2 月に開催を予定しており、西日本での開催を希望する声もあるため、会場選定を含めて調整中です。

6 ページ目は強化事業に関する報告です。6 月に中国で開催されたアジアショットガンカップでは、トラップ個人で金メダル、トラップ混合ミックスおよびスキート混合ミックスで銅メダルを獲得するなど、好成績を収めました。7 月にはイタリアでのワールドカップに出場予定です。

最後に、収支に関するご報告です。昨年度は事業や人員採用を抑制した結果、黒字となりましたが、今年度は抑制していた事業の再開や補充を行うため、当初は約 700 万円の赤字予算となる見込みでした。しかし、3 月の理事会にて、実行ベースで収支均衡を目指す方針が確認され、現在はその方針に基づいて運営を進めております。

なお、4 月初旬にスポーツ仲裁機構に申し立てられました案件についてもご報告いたします。2019 年に関東の射撃場で発生した盗撮事件に関与した元強化選手が、昨年全日本選手権前に会長の耳に入り、当該選手は理事 2 名との面談を経て強化選手辞退届を提出しました。しかし、その後本人が「辞退は強制されたもので無効」と主張し、仲裁機構に申請を行いました。

協会としては、当該申請内容が事実と異なると判断し、弁護士を立てて対応しております。すでに対応費用が発生しており、今後も継続的に費用がかかる見込みです。理事会では、最終的に相応の支出になる可能性もあるとの見通しを共有しております。こうした事情を踏まえ、今年度の本部運営には慎重な財務管理が求められる状況です。以上、ご報告申し上げます。

不老会長：

ただいま事務局より、2025 年度の事業計画および収支予算に関連する事項について詳細な説明がございました。よろしければ、報告事項 3 についてご了承いただいたものとさせていただきます。

一同：

はい。

不老会長：

ありがとうございました。それでは、報告事項 3 はご了承いただいたものと確認いたします。続いて、報告事項 4「愛知・名古屋アジア 2026 年競技大会」について、清水理事よりご説明をお願いいたします。

報告事項 4：愛知・名古屋アジア 2026 競技大会について

清水常務理事：

簡潔にはありませんが、アジア大会に関する現状をご報告いたします。冒頭、不老会長からご指摘があった通り、準備が思うように進んでいないのが実情です。具体的な問題点を挙げればきりがなほど多岐にわたり、現在、愛知県および組織委員会と連携しながら、個別に対応策を模索している状況です。

今回配布した資料には、クレ射撃に携わる皆様にとっては常識ともいえる内容を記載しておりますが、行政や組織委員会の中では、こうした基本的な認識すら十分に共有されていないのが現実です。たとえば、卓球やバドミントン、バレーボールといった屋内競技と同じ感覚で議論が進められており、屋外競技であるクレ射撃特有のリスクが軽視されています。特に、台風などの天候リスクに対する運営体制が整っておらず、東京五輪の際のような綿密な官公庁との調整もなされていません。

さらに深刻なのは、クレ射撃会場の整備状況です。先週木曜日の時点で、会場施工業者が未定であることが判明しました。ライフル競技の工事はすでに始まっている一方で、クレ射撃は完全に手つかずの状態です。来年6月にはテストイベントを予定しているにもかかわらず、改修工事や射撃場の指定など、必要な準備が間に合うのか極めて不透明です。

このような状況を踏まえ、私は本総会の間を借りて、皆様と情報を共有し、銃器を扱う競技としてのリスクを最小限に抑えるための認識を深めていただきたいと考えております。そして、この場での皆様のご意見や懸念を、愛知県および組織委員会に正式に伝え、リスク低減に向けた働きかけを行ってまいります。

総じて申し上げたいのは、アジア大会の準備が他競技と同じスピード感で進められている現状では、クレ射撃に特有のリスクが顕在化し、重大な問題に発展しかねないということです。この点については、皆様も同様の認識をお持ちだと信じております。したがって、私はこの問題を看過することなく、強い意思をもって関係機関に改善を求めていく所存です。以上、ご報告申し上げます。

不老会長：

ただいま清水理事より、アジア大会に関する詳細な報告がありました。皆様の中で、何かご意見やご指摘があればお伺いしたいと思います。現時点での進捗状況は非常に芳しくなく、実際、海外から招聘したディレクターも、インドネシアとカタールからそれぞれ2度来日しましたが、準備の遅れに呆れて帰国するという事態に至っています。我々としても、このままでは非常に憂慮すべき状況であると認識しております。

それでは、次の報告事項5「その他」に移ります。ご質問があればご発言ください。

なければ、次に審議事項に入らせていただきます。審議事項1「2024年度事業報告書案」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

審議事項1、2024年度事業報告書案について

坂本事務局長：

資料No.5に基づき、2024年度の事業報告についてご説明いたします。まず2ページの総評から読み上げます。2024年はオリンピックイヤーでありましたが、4月にカタール・ドーハで開催されたISSF最終パリ五輪予選において、日本は男女ともにトラップ・スキート両種目で出場枠を獲得できず、パリ五輪出場は叶いませんでした。

協会内では、2023年に発生した混乱が2024年2月2日の臨時社員総会における理事9名の解任・辞任を経て、ようやく落ち着きを取り戻しつつあります。4月からは総務・強化・競技・審査の各委員会が新体制となり、過去の課題を整理しながらゼロベースでの再出発を図りました。強化方針については、従来の個人合宿中心の体制を見直し、選手とナショナルコーチによる集合合宿を定期的を実施。意識改革とチームの一体感を醸成する座学も取り入れました。また、若手育

成の枠組み「FTEM」においては、Talent（T）カテゴリーとして新たにU25を創設し、下期から新コーチのもとで活動を開始しました。

競技・審査面では、本部公式大会におけるルールの厳格化を徹底し、安全を最優先にしながらも効率的な大会運営を実現しました。ただし、レフェリーの世代交代が進んでおらず、今後の課題と認識しています。9月末には佐賀県で5年ぶりに国スポのクレ射撃競技が開催され、地元やふるさとを代表して戦う国スポの素晴らしさを改めて実感する大会となりました。

また、諸事情により5年間未開催だったJSP0公認スポーツ指導者クレ射撃コーチ1養成講習会を実施し、全国から49名が修了。これは大きな成果です。組織運営面では、ガバナンスコードに基づき、コンプライアンス委員会の設置や規定類の見直しを進め、JOC加盟団体審査会からも改善の評価を得ています。今後も健全な組織運営と競技力向上を両立させ、公益社団法人としてふさわしい協会運営を目指してまいります。

広報活動では、InstagramやYouTubeを活用し、YouTubeでは年間36本の動画を配信。登録者数は3,360人と会員数を上回る規模となりました。推薦業務では、技能講習免除を含む1推薦を年間125件実施しました。

4ページでは、佐賀での国スポにおいて東京都が総合優勝を果たし、個人戦では柿原康晴氏（トラップ）と星野晴都チェイス氏（スキート）が優勝しました。国スポ第5期実施競技選定については、1月30日に申請済みで、現在結果待ちです。

シミュレーターイベントはアスリート委員会と連携し5回実施。本部公式大会は抽選制となるほどの参加希望があり、地方大会も全国47都道府県で235大会を開催しました。審判員講習会では、1級72名、2級トラップ51名、2級スキート29名、射撃指導員14名、複合8名、計174名が登録されました。

7ページでは、兵庫県立総合射撃場が新設され8月8日に公認検定会を実施しました。

強化が新体制になって初派遣となったカザフスタン・アルマトイでは、スキート混合とトラップ混合でそれぞれ3位入賞を果たしました。強化の集合合宿は福岡・成田・岡山を拠点に計7回実施し、U25の合宿も新体制で始動しました。

また、スポーツドクター会合やビル内の訓練など関連部門との連携イベントにも積極的に参加しました。11ページにはアジア大会関連の会議、12ページには不老会長が出席されたイタリアでのISS総会の記載があります。理事会は年間7回、総会は6月20日に開催されました。

14ページでは、ガバナンスコードに関する課題と改善報告を3カ月ごとにJOC審査会へ提出。個人表彰では、2024年度に50ストレート賞が8回授与されました。15ページでは、佐賀国スポの団体総合成績に基づき、奨励金を1位から8位までの都道府県チームに贈呈いたしました。

また協会の功労賞は30年以上在籍された方々に贈呈いたしました。

以上が事業報告の概要です。詳細はお手元の資料をご参照ください。

不老会長：

ただいま事務局長より2024年度事業報告書案の説明がありました。ご質問等があればお受けいたします。特にないようでしたら、ウェブ出席者を含め、挙手による採決を行います。賛成の方は挙手をお願いいたします。

一同：

はい

不老会長：

ウェブ参加者も含め、全会一致で承認されました。ご協力ありがとうございました。それでは、次に審議事項2「2024年度決算書案」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

審議事項 2、2024 年度の決算書案について

杉野経理担当：

それでは、2024 年度決算書についてご説明いたします。まず 1 ページ目の貸借対照表からご覧ください。前期と比較して特筆すべき点は、債務の履行が順調に進んだことにより、資産・負債ともに縮小し、総資産は 2,800 万円減少しました。一方で、負債はそれを上回る 4,600 万円の減少となり、結果として 1,800 万円の利益を計上したことが反映されています。

資産合計は 1 億 3,037 万円で、前期比 2,818 万 9,000 円の減少。負債合計は 4,307 万 4,687 円で、前期の約 8,900 万円から半減しました。これにより、正味財産は 1,967 万 4,000 円増加し、バランスが取れた形となっています。債務減少の主な要因は、①職員 1 名の退職による退職金 1,700 万円の支払い、②JOC への未精算分 1,008 万円の支払い、③政策金融公庫からの借入金 3,000 万円のうち 1,625 万円を返済したことです。残債は 3 月末時点で 500 万円となっています。

続いて、3 ページの正味財産増減計算書（損益計算書に相当）をご覧ください。経常収益は 1 億 9,620 万 9,000 円で、内訳は会費、事業収益、補助金等です。経常費用は事業費 1 億 4,465 万 3,000 円、管理費 3,101 万 3,000 円で、合計 1 億 7,566 万 7,000 円。差し引きで当期利益は 2,054 万 2,000 円となりました。除却損 27 円を差し引き、法人税等を控除した後の最終利益は 1,967 万 4,724 円です。これにより、期末の一般正味財産は 8,576 万 7,774 円、指定正味財産 152 万 8,000 円を加えた合計は 8,729 万 6,100 円となりました。

当協会は公益社団法人であるため、損益計算書は 3 つの会計区分に分かれています。4 ページの内訳表をご覧くださいと、①公益目的事業会計（普及振興・競技力向上）、②収益事業会計（検定・物品販売）、③法人会計（事務局運営）に分類されています。法人会計の費用は公益目的・収益事業に按分され、公益目的には 56%、収益事業には 20%が配分されました。

公益目的事業の収益は 1 億 3,355 万 6,000 円、費用は 1 億 3,439 万 5,978 円で、差引き -83 万 9,607 円。収益事業は収益 1,729 万 6,000 円、費用 1,025 万 7,000 円で、利益は 703 万 8,211 円。法人会計は収益 4,535 万 7,000 円、費用 3,101 万 3,755 円で、利益は 1,434 万 3,447 円。これらを合算すると、当期経常増減額は 2,054 万 2,051 円となります。

次に、公益法人会計の第 2 段階として、収益事業の利益の半額（350 万円）を公益目的事業に振替える規定があります。これにより、公益目的事業の利益は 266 万円、収益事業の利益は 353 万 8,211 円となり、後者に法人税 86 万 7,300 円が課税され、税引後利益は 267 万 911 円となりました。法人会計は非課税項目が多く、法人税は発生していません。

以上の 3 会計を統合したものが、3 ページの正味財産増減計算書です。決算書類の末尾には各会計の内訳も添付しておりますので、併せてご確認ください。ご不明点があれば、会議後でも事務局までお問い合わせください。

不老会長：

ありがとうございました。それでは、監査報告をお願いいたします。

坂本（昭）監事：

監査報告をいたします。令和 7 年 5 月 29 日、私と萩野谷理事の 2 名で、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までの理事の職務執行について監査を実施しました。理事・職員との意思疎通を図り、理事会等の重要会議に出席し、必要に応じて説明を求め、決裁書類や会計帳簿、財産目録を精査いたしました。

その結果、①事業報告および附属明細書は法令・定款に則り、法人の状況を正しく示していると認められました。②理事の職務執行において不正行為や重大な違反は認められませんでした。③計算書類および財産目録も、法人の財産・損益状況を適正に示していると判断いたしました。あわせて、19 ページの監査法人に関する記載もご確認いただければと思います。以上です。

不老会長：

監査報告ありがとうございました。ご質問等はございますか？

藤井正会員（広島）：

退職引当金について伺います。前期から減少していますが、これはどのような理由でしょうか
坂本事務局長：

先程経理が説明した通り、職員1名が退職され、その退職金を支払ったことによるものです。

藤井正会員（広島）：

昨年度からこの件が話題になっていましたが、これで問題は解決したと理解して宜しいですか？
坂本事務局長：

はい、その通りです。

不老会長：

他にご質問はございますか？ それでは、2024 年度決算書案について採決を行います。賛成の方は挙手をお願いいたします。

一同：

はい

不老会長：

ありがとうございました。ウェブ参加者も含め、2024 年度決算書案は全会一致で承認されました。その他、皆様から何か御意見等がございましたらお願いします。

審議事項その他 1

坂本（昭）正会員（佐賀）：

一点、発言の機会をいただきたく存じます。私は本部の監事を務めると同時に、仲裁機構に関わる選手が所属する地方協会の会長でもあり、非常に難しい立場におります。今回の件について、私の率直な所感を申し上げます。

この問題の発端は、選手と役員との間での意思疎通の齟齬、いわば「ボタンの掛け違い」にあると感じています。役員の皆様は選手の将来を思って発言されたと伺っておりますが、それが選手側にはそのように受け取られなかった。結果として、私の指導力不足もあり、事態が仲裁機構にまで発展してしまったことを、深く反省しております。

すでに協会として数百万円の費用が発生しており、今後さらに膨らむ可能性もあると聞いております。このような費用が強化活動に充てられれば、どれほど有意義であったかと考えると、忸怩たる思いです。現在、両者は代理人を通じて仲裁機構でのやり取りを続けておりますが、私は何とかこの「掛け違えたボタン」を掛け直すことができないかと切に願っております。

仲裁機構は裁判と異なり、明確な終結点があるわけではありません。両者が意地を張り続ければ、1 年、2 年と長期化し、費用も膨らむ一方です。だからこそ、第三者を介さず、当事者同士が直接対話できる場を設け、もつれた糸を解きほぐすような解決を目指していただきたい。私にできることがあれば、どんなことでもお申し付けください。微力ながら、汗をかく覚悟でおりま

す。以上、最後に一言申し上げました。

不老会長：

坂本監事は佐賀県協会の会長であり、日本クレイ射撃協会の監事でもあります。今回の件は、所属選手が仲裁機構に申し立てを行ったものであり、我々協会側は受け身の立場にあります。この件については、コンプライアンス委員会にて対応を進めておりますので、委員長より現状をご説明いただきます。

丸石コンプライアンス委員長：

現在、選手側から和解案が提示されております。内容としては、今回の不祥事が事実であることを認めつつも、今後の強化選手選考において過去の件を判断材料としないしてほしいという要望が含まれています。

ただし、これは本総会で即断すべき事項ではなく、現在、常務理事会にて慎重に協議を重ねているところです。結論が出次第、改めて皆様にご報告いたしますので、その際はご理解とご協力をお願いいたします。

不老会長：

この件については、コンプライアンス委員会および常務理事会において、慎重に議論を進めてまいります。坂本監事のお気持ちは十分に理解しておりますが、相手方のある問題であり、過去の経緯も踏まえた上で、円満な解決に向けて調整を図ってまいります。どうか、今しばらくお時間をいただければと思います。よろしいでしょうか。

坂本（昭）監事：

はい、承知いたしました。

不老会長：

ありがとうございました。他にご発言等はございませんか？

審議事項その他2

森（秀）正会員（滋賀）：

滋賀の森です。一点確認させていただきたいことがあります。理事会で使用されている資料についてですが、以前の高橋会長の時代には、ブロック単位で地方協会にも共有するようにとの指示がありました。しかし、現在はそのような資料の共有が私たちの手元には届いておらず、運用が変わったのかどうかを確認させていただきたいと思います。

坂本事務局長：

協会の組織はブロック体制を基本としており、理事会資料については、各ブロック理事が地方協会の理事や会長に対して情報を伝達するという流れが原則です。

森（秀）正会員（滋賀）：

確かに以前はそのように運用されていきました。現在もその体制に変更はないという理解でよろしいですか？

坂本事務局長：

はい、基本的には現在も同様の体制で運用されていると認識しています。ただし、資料が届いていないという事実があるのであれば、それは私たちとしても改善すべき点であると受け止めてお

ります。

森（秀）正会員（滋賀）：

わかりました。もう一点、今年度はフェスティバルの開催が予定されていると伺っております。つきましては、開催要項がまだ決定していないとのことですので、できるだけ早期に要項を確定いただきたく、よろしくお願いいたします。

不老会長：

ご指摘ありがとうございます。事務局にて速やかに対応を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。他にご発言等はございますか。

審議事項その他 3

難波正会員（兵庫）：

兵庫の難波です。お願いごとですが、先ほど坂本事務局長から「地方公式大会あつての日本クレ一」というお話がありましたが、まさにその通りだと私も感じております。ただ、現場では厳しい状況が続いております。

このままでは、地方公式大会の開催自体が困難となり、競技の裾野がさらに狭まってしまいます。もちろん、参加費を上げれば参加者が減るという懸念も理解しておりますが、現状では大会を開催しても全く収益が残らず負担が増す一方です。公認料も含め費用面での検討をお願いいたします。

不老会長：

ご指摘の通り、装弾費やクレ一代などのコストが上昇している中で、非常に厳しい状況にあることは理解しております。今後、具体的な提案を検討してまいります。

坂本事務局長：

ご意見ありがとうございます。私たち本部も、本部公式大会の参加費は据え置いたままで、利ざやがほとんどない中で運営しているのが実情です。参加費を上げれば参加者が減るというリスクもあるため、慎重な判断が必要です。今後、コスト構造を精査し、シミュレーションを行った上で、改めてご相談させていただきます。

不老会長：

参加者が減少傾向にある中で、地方の現状・ご提案の趣旨を踏まえ、関係者での検討を進めてまいります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。他にご発言等はございますか。

審議事項その他 4

齊藤正会員（秋田）：

秋田の齊藤です。昨年、急遽理事を務めさせていただいた際、理事会において日本クレ一射撃界の底上げを図るため、ナショナルチームに海外からアドバイザー的な立場のコーチを招聘し、指導体制を強化すべきだと提案いたしました。その際、良質なコーチはオリンピック終了後でなければ動かないという話もありました。現在、パリ五輪も終わり、全国の会員から「招聘は決まったのか」「どのような人物が来るのか」といった声が寄せられております。現時点での進捗状況について、ご説明いただけますでしょうか。

清水強化担当理事：

ご質問につき、現在の状況についてご報告いたします。ナショナルコーチ招聘に関しては、日本ライフル射撃協会の取り組みを参考に、私を含め大江氏、中山ヘッドコーチ、大山氏、横内氏の5名で、先々月にNTC（ナショナルトレーニングセンター）にて協議を行いました。ライフル協会では、過去に地方協会から推薦されたコーチを対象に認定制度を構築し、制度化までに約10年を要したと伺っております。我々も今まさにその初期段階にあり、コーチの要件定義や制度設計を進めているところです。クレ射撃には流派のような技術的系譜が存在し、誰がどのような指導を受けてきたかが重要な要素となります。したがって、科学的根拠に基づいた強化体制の構築と併せて、制度的な整備が不可欠です。

JOCからも、選手の底上げと組織的な強化に向けた取り組みを求められており、我々としてもその期待に応えるべく、まずは制度の土台作りから着手しております。現時点では具体的な人選や招聘の決定には至っておりませんが、理事会や総会場で進捗を可視化し、皆様と共有できるよう努めてまいります。

齊藤正会員（秋田）：

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

大江 HPAD：

補足させていただきます。現在、私はハイパフォーマンスティレクターとして清水理事と連携し、パリ五輪終了後に外国人コーチのリクルートを進めてまいりました。中山ヘッドコーチと、元ASCセクレタリーの中村美穂氏が中心となって候補者の選定を行いましたが、いくつかの課題が浮上しています。

まず、JOCからは1,200万～1,400万円程度の報酬が支給される見込みですが、外国人コーチを日本に招聘する場合、通訳や住居の手配など、JOCの補助対象外の費用が発生します。これらを協会が負担すると、年間700～800万円の追加支出が必要となり、財政的な負担が大きいという問題があります。

さらに、日本の法制度上、外国人コーチが日本国内で選手に直接指導する際、選手が銃器や弾薬に触れられないという銃刀法・火取法の制約があり、これが大きな障壁となっています。こうした事情から、むしろ日本から選手を外国人コーチの拠点に派遣し、現地で指導を受ける方式のほうが現実的かつ効果的であるとの結論に至りました。

この方式であれば、法的制約を回避でき、費用も抑えられる可能性があります。今年度の事業計画には盛り込めませんでしたが、次年度以降の実施に向けて、清水理事や中山ヘッドコーチと方針を共有し、準備を進めている段階です。引き続きご理解とご支援を賜れば幸いです。

不老会長：

以上のように、現在は制度設計と実現可能な方法の模索を進めている段階です。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

齊藤正会員（秋田）：

承知いたしました。ありがとうございます。

不老会長：

他にご発言はございますか。

審議事項その他5

【大山アスリート委員長】

アスリート委員会の大山です。昨年度まではエネオス様のご支援により、各地でシミュレーター

を使用した普及活動を展開することができておりましたが、本年度からはその補助が打ち切られたため、従来のような活動が困難な状況となっております。そこで、全国の都道府県協会の正会員の皆様には、ぜひ地域で普及活動を企画される際には、ぜひアスリート委員会までご一報ください。可能な限りご協力させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

不老会長：

ただいま大山委員長より、アスリート委員会としての協力体制についてご案内がありました。普及活動に関するご相談があれば、ぜひアスリート委員会にお寄せいただきたいと思います。

坂本事務局長：

また、都道府県協会の皆様におかれましては、たとえばシミュレーターイベントの開催など、具体的な普及活動のご希望があれば、ぜひお知らせください。アスリート委員会と連携し、実現に向けて検討させていただきます。

不老会長：

ありがとうございます。

ご質問も一通り出尽くしたようですので、皆様よろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、これをもちまして本日の定時社員総会を閉会といたします。ご出席、ご協力に心より感謝申し上げます。

議長より、WEB 会議システムを用いた本総会は、全ての報告事項、審議事項が終了したことが告げられ、閉会した。

15 時 00 分 閉会

2025 年 6 月 24 日

公益社団法人 日本クレール射撃協会

議

長

不老 安正

(議長 不老 安正 自筆署名)



議事録署名人

相馬 正

(正会員 相馬 正 自筆署名)



議事録署名人

長谷川 雅彦

(正会員 長谷川 雅彦 自筆署名)

